

解答

- 問一 ア かか〔けて〕 イ びひん ウ かんじん エ こわいろ オ かな〔でる〕
- 問二 ① 屋外 ② 隙 ③ 脚光 ④ 〔お〕留守〔番〕 ⑤ 深刻 ⑥ 万事休〔す〕
- ⑦ 貸〔して〕 ⑧ 禁 ⑨ 精一杯 ⑩ 〔感〕極〔まった〕
- 問三 A ウ B エ C イ D ア
- 問四 ① 低音の演奏形態の幅を拡げるため
② ① 人間と楽器が合体している
2 母校の名前がプリント
- 問五 わたしのチューバ
- 問六 I イ II ア III ウ
- 問七 エ
- 問八 イ
- 問九 ウ
- 問十 オレ
- 問十一 ③・④
- 問十二 先輩が大切な自分の楽器を先輩につかわせるほど、パーカッションパートの団結力が強いこと。
- 問十三 野球部の松
- 問十四 インドア派が経験したことのない暑さのなか、がんばって演奏したこと。
- 問十五 エ
- 問十六 じつと自分
- 問十七 イ
- 問十八 ウ

解説

- 問十二 次の段落で、部員が自分の楽器に名前をつけ、分身のように大切にしていることが描かれています。「わたし」は、「そんな大切なヤツの分身である『健太』を先輩の北川真紀につかせていた。パーカッションパートの団結力を感じさせる」と感じ入っています。
- 問十四 前の部分に「アニオタで完全インドア派の渚にとって、スタンドの暑さは経験したことのないようなものだったのだろう。」とあります。